

コロナ禍で東京都の人口が減少 今後は日本人の地方分散と外国人の入国が焦点

政策調査部主任研究員

岡田豊

03-3591-1318

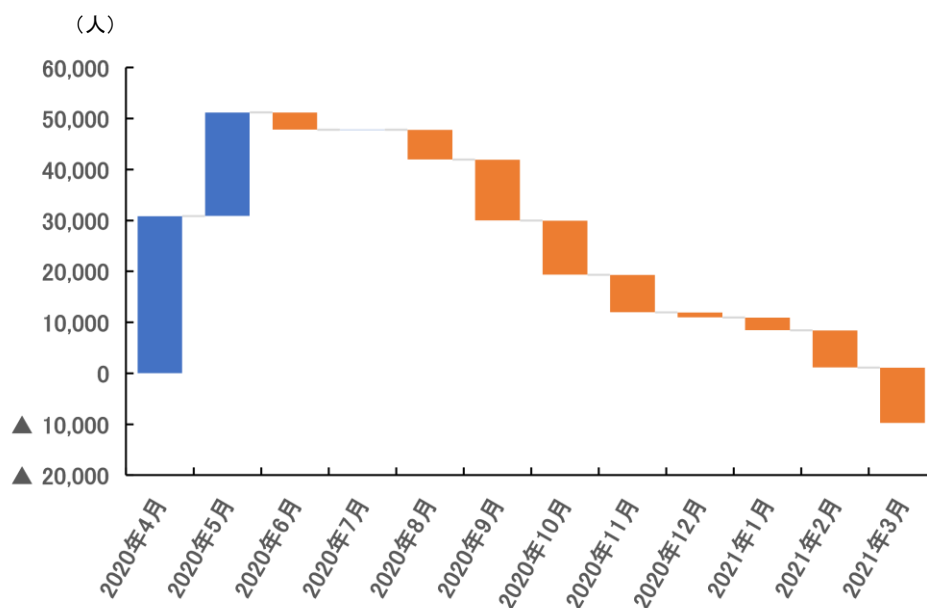
yutaka.okada@mizuho-ri.co.jp

- 東京都の人口は、2020年5月に過去最高の1,400万人に達した後、減少基調となり、8月以降は8カ月連続で減少している。また、2021年2月は前年同月比で24年8カ月ぶりにマイナスとなった。
- この1年間の東京都の人口減少は主に区部における人口減少であり、また、日本人だけでなく外国人の影響も大きい。コロナが終息するまで東京都の人口は減少し続けるだろう。
- アフターコロナの東京都の人口は、リモートワークの浸透で日本人の地方分散が進むものの、外国人の入国は増加するので、増加基調に転じるであろう。

1. コロナ禍で東京都の人口が前年同月比で約25年ぶりに減少

2020年4月～2021年3月の東京都の毎月の人口（毎月1日の推計人口。以下、本稿では同じ）を前月比で見ると¹、2020年8月以降、8カ月連続のマイナスとなっている（図表1）。2019年4月～2020年3月の前月比（次ページ、図表2）と比べると、新型コロナウイルス感染症の影響があまり見られなかった4月の人口の増減数はそれまで変わらなかった。しかし、毎年最も大きな増加が見込まれる4月分の人口移動が反映される5月において、2020年の増加数は2019年と比較して半減したうえ、2019年は6月以降も多くの月で増加しているのに対し、2020年は6月以降ほぼ減少しているのがわかる。

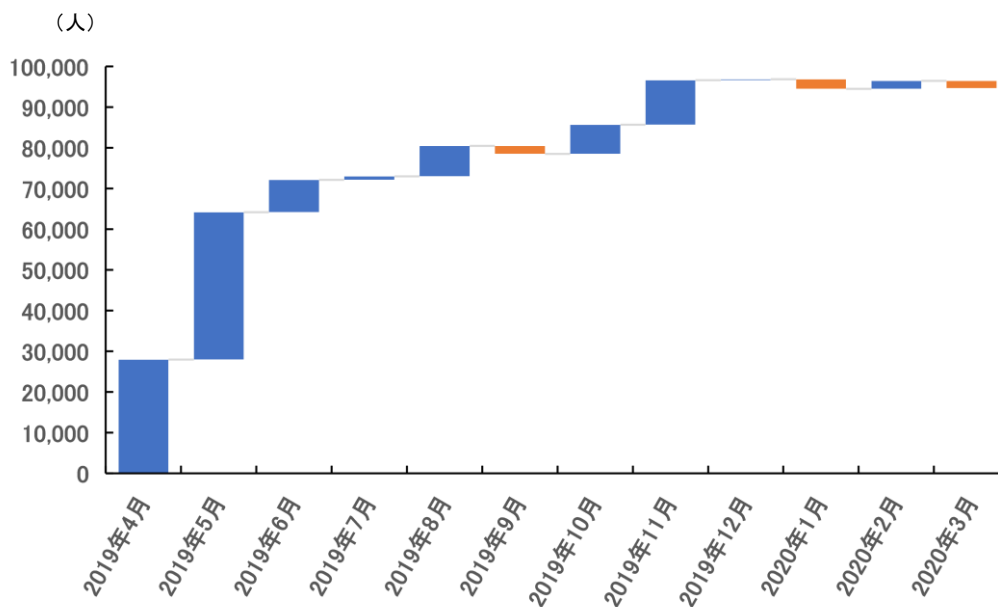
図表1 東京都の毎月人口における前月比の増減（2020年4月～2021年3月）



(資料) 東京都 HP より、みずほ総合研究所作成

また、2020年8月から2021年3月まで、東京都の毎月の人口は前月比で8カ月連続で減少しているが、これは1995年10月以降では最長となっている（図表3）。この結果、2021年2月の東京都の人口は前年の2020年2月に比べてマイナスとなった。東京都の毎月の推計人口が前年同月比でマイナスとなるのは、1996年6月以来、実に24年8カ月ぶりである。このように、コロナ禍における東京都の人口減少は歴史に残る大きな変動といえる。

図表2 東京都の毎月人口における前月比の増減（2019年4月～2020年3月）



(資料) 東京都 HP より、みずほ総合研究所作成

図表3 東京都の毎月人口における過去の連続減少（1995年10月以降で3カ月以上）

連続減少期間	月数	減少数（連続減少中の合計）
1995年12月～1996年4月	5カ月	▲53,188人
1996年12月～1997年4月	5カ月	▲28,301人
1997年12月～1998年4月	5カ月	▲13,984人
1998年12月～1999年4月	5カ月	▲11,986人
2010年 1月～2010年3月	3カ月	▲4,198人
2011年 1月～2011年3月	3カ月	▲7,478人
2011年12月～2012年3月	4カ月	▲9,066人
2013年 1月～2013年3月	3カ月	▲9,286人
2020年 8月～2021年3月	8カ月	▲57,600人

(資料) 東京都 HP より、みずほ総合研究所作成

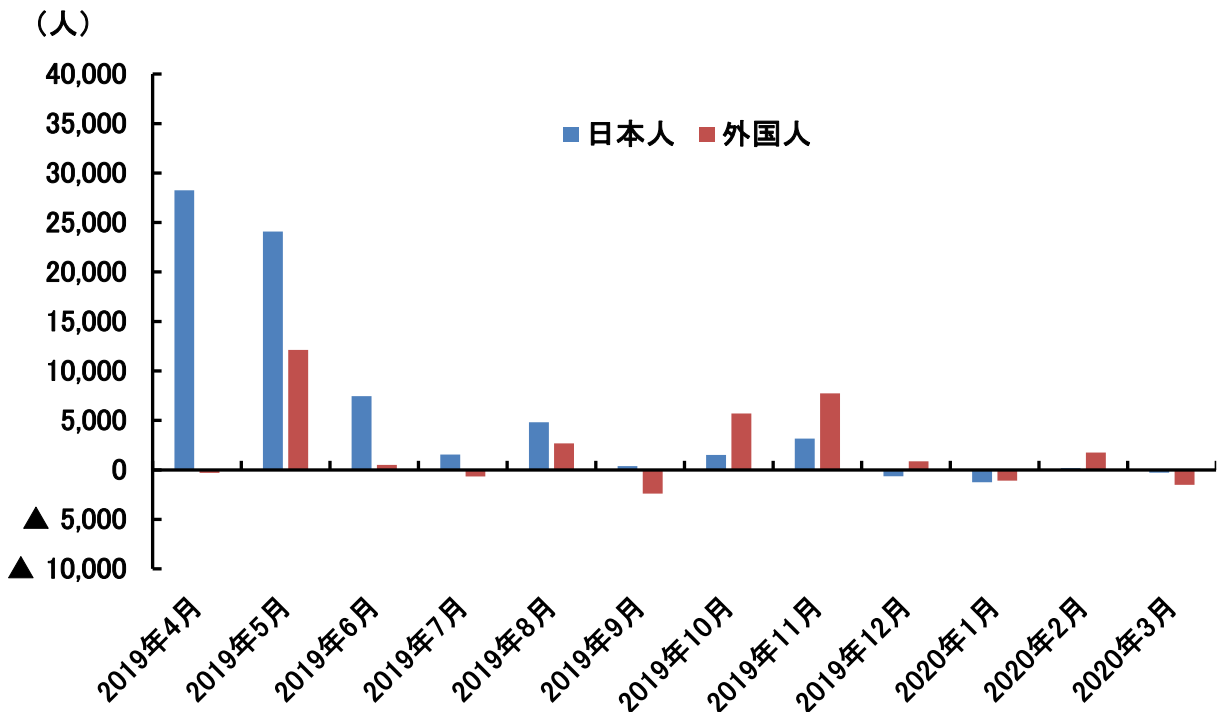
2. コロナ禍の東京都の人口では日本人だけでなく外国人の減少も目立つ

人口増減を日本人と外国人に分けてみると、2020年4月から2021年3月にかけて日本人は21,857人増加しているのに対し、外国人は31,624人減少した。前年の2019年4月から2020年3月にかけては日本人が69,246人、外国人が25,416人、それぞれ増加したことを考えると、東京都の人口が約25年ぶりに減少した要因には、日本人の増加が小幅にとどまったことに加え、外国人の減少が影響した。

また、日本人と外国人の前月比をみると（図表4）、コロナ前の2019年4月から2020年3月にかけて日本人は進学・就職の影響で2019年4月と5月に大きく増加し、その他の月も減少数はほとんどなかった。外国人は進学・就職の影響で2019年5月、10月、11月に大きく増加し、日本人同様、その他の月もあまり減少しなかった。

一方、2020年4月から2021年3月にかけては（次ページ、図表5）、日本人はコロナ禍の影響で2020年8月以降の減少が大きい。2020年8月以降は東京都以外に転出する日本人が多かったことが要因である。また、外国人はコロナ禍の影響で2020年4月から11月にかけて減少し続けたものの、2020年12月から2021年2月にかけて増加に転じた。この間の増加は外国人の入国緩和の影響と推察される。

図表4 東京都の日本人と外国人の前月比の増減（2019年4月～2020年3月）



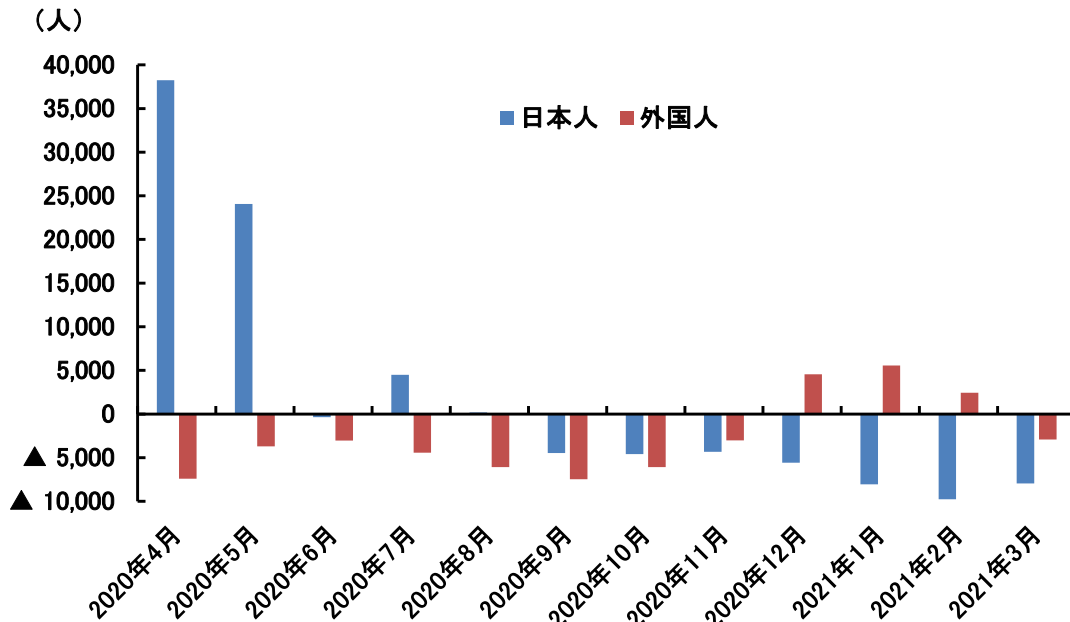
（資料）東京都 HP より、みずほ総合研究所作成

3. コロナ禍で東京都区部の人口動向に大きな変化

東京都の人口動向を「区部」と「区部以外」に分け、2020年4月～2021年3月と2019年4月～2020年3月を比較すると（図表6）、日本人と外国人共に「区部」でコロナ禍の大きな影響を受けているのがわかる。一方、「区部以外」の日本人はコロナ前とコロナ禍で区部ほど大きな違いはない。

この背景として、リモートワークの進展で、東京都では「区部」「区部以外」を問わず、オフィスが集積する都心にアクセスの良いエリアに居住する必要性が小さくなっていることが挙げられる。一方、週の何日かは出社する必要がある限定的なリモートワークの場合、公共交通機関で出社できるエリアに住む必要があり、居住地として「区部以外」も有力な選択肢となろう。このように、「区部以外」に移住してきた者がいる一方、「区部以外」から東京都以外に移住した者もいる等から、「区部以外」では人口の増加要因と減少要因がある程度相殺されていると推察される。

図表5 東京都の日本人と外国人の前月比の増減（2020年4月～2021年3月）



（資料）東京都 HP より、みずほ総合研究所作成

図表6 東京都の日本人と外国人における、区部と区部以外の前年同期比の増減

(人)

	2020年4月～2021年3月		2019年4月～2020年3月	
	区部	区部以外	区部	区部以外
日本人	14,637	7,220	63,702	5,544
外国人	▲30,190	▲1,434	20,324	5,092

（資料）東京都 HP より、みずほ総合研究所作成

4. 今後の東京都の人口は日本人の地方分散と外国人の入国が焦点

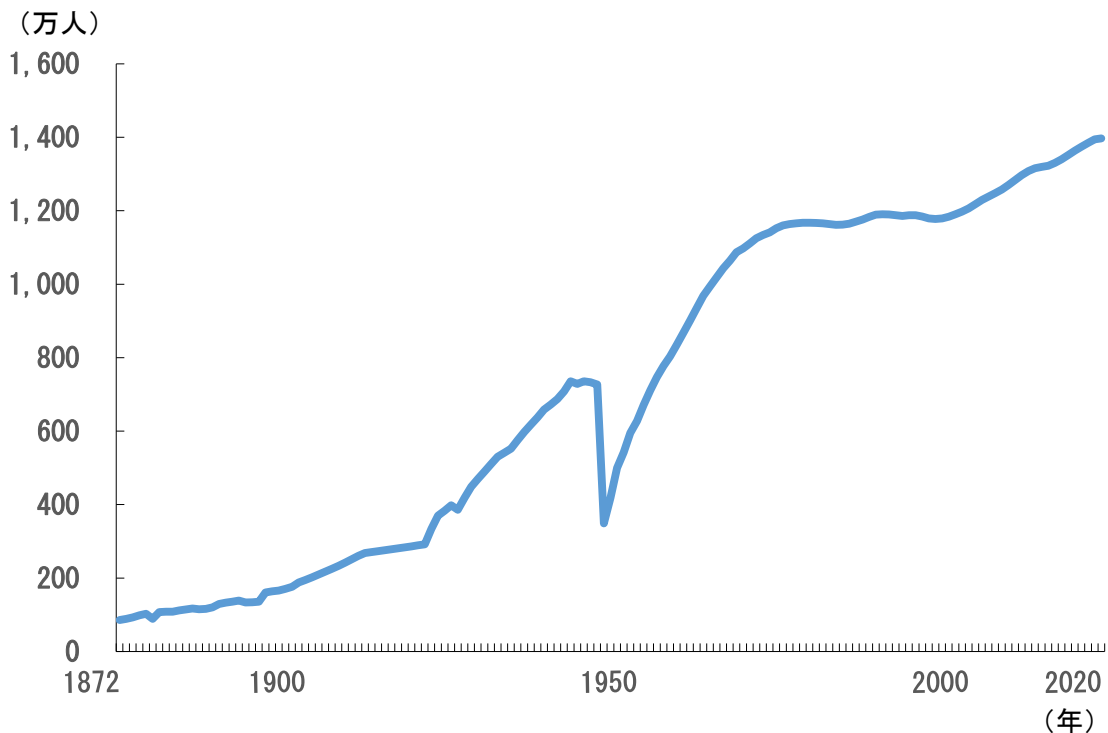
これまでの東京都の人口（毎年10月1日の人口）を統計のある1872年から見ると（図表7）、戦前は1923年の関東大震災時を除いて増加基調にあったが、1940年代に戦争の影響で大きく減少した。その後、1945年から1975年までは戦後復興と高度経済成長で大きく増加した。

高度経済成長の終わりから、東京都の人口は長い安定期に入った。特に、人口の東京一極集中が問題視されたバブル期は、東京圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）全体では人口が大きく増加したものの、東京都の人口は、高い家賃や高い住宅価格などにより、ほとんど増加しなかった。そのため、1975年から1995年までの約20年間、東京都の人口はわずか10万人の増加にとどまっている。

しかし、バブル崩壊後の若者、特に若い女性の転入超過を背景に、東京都の人口は1995年を底に緩やかに増加し続けている。さらに、近年は外国人も東京都の人口増加に寄与している。東京都の人口は、1995年が11,773,605人であるのに対し、2020年が13,971,109人で、この25年間で2,197,504人増加した。この間の年平均の増加数は約9万人となっている。

東京都の2021年以降の人口動向では、日本人の地方分散と外国人の入国が鍵を握るであろう。区部に住む日本人にとって、都心にあるオフィス街からの交通の便の良さは大きなメリットである。しかし、コロナ禍で進むリモートワークはそのメリットを大きく減じている。2020年8月以降、人口の地方分散のきざしが見られるが、アフターコロナでもリモートワークは一定割合残ると考えられることから、人口の地方分散は今後も続き、東京都の人口を抑制するであろう。

図表7 東京都の人口の推移



(資料) 東京都 HP より、みずほ総合研究所作成

一方、外国人の入国は新型コロナウイルス感染症が終息し、ビジネス分野を中心に外国人の入国が緩和されれば再び増加に転じるのは間違いない。特に、2019年に新設された在留資格「特定技能」は単純労働分野での外国人受け入れを拡大するものであり、サービス業での外国人受け入れが進めば、サービス業従事者が多い東京都の人口増加に寄与するであろう。

したがって、新型コロナウイルス感染症が終息するまでは、外国人の入国はあまり見込めないなか、日本人の地方分散が進み、東京都の人口は減少していくであろう。また、アフターコロナの東京都では、日本人の一部においてリモートワークが「ニューノーマル」となって定着すると見込まれるため、日本人はコロナ前ほど大きく増加しないが、コロナ禍で減少していた外国人はアフターコロナでは大きく増加すると推察される。そのため、日本人の地方分散がこれまで以上に進まない限り、アフターコロナの東京都の人口は緩やかに増加していく可能性が高い。

5. おわりに

東京都の人口は、前月比の毎月の人口がこれまでに見られないほど長期間減少し続け、約25年ぶりに前年同月比で人口が減少するなど、コロナ禍で異変続きとなっている。

近年の東京都の人口は4月と5月に大きく増加していたが、新型コロナウイルスの懸念が残る2021年の4月と5月は人口の増加があまり期待できないことから、当面は人口減少が続く可能性が高い。そのため、2021年10月1日の東京都の人口も2020年10月1日より減少すると推察される。東京都の毎年の人口は1995年を底に増加し続けているが、2021年は減少に転じるであろう。

コロナワクチンの接種者数が増加するなどにより新型コロナウイルス感染症が終息に向かうとみられるのは2022年以降であろう。そのアフターコロナの東京都の人口では、日本人と外国人を分けて考える必要がある。日本人ではリモートワークの一定の定着が見込まれるため、地方分散は今後も続くと推察される。一方、外国人はサービス業従事者を中心に増加することは間違いない。日本人の地方分散をより加速させない限り、東京都の人口は減少しない。アフターコロナでは、一極集中是正のためには、日本人だけでなく外国人の人口動向も視野に入れた施策が必要であろう。

¹ 東京都が推計する人口。なお、この毎月の推計人口は2020年の国勢調査の結果を受けて、修正される可能性がある。

●当レポートは情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成されておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。本資料のご利用に際しては、ご自身の判断にてなされますようお願い申し上げます。また、本資料に記載された内容は予告なしに変更されることもあります。なお、当社は本情報を無償でのみ提供しております。当社からの無償の情報提供をお望みにならない場合には、配信停止を希望する旨をお知らせ願います。